

延岡市立岡富小学校
家庭教育学級「ゆずり葉」

あなただけに教えます。子育ての秘密！
～過保護 過干渉していませんか～



R5. 7. 27(木) 17:30～18:30

・・・自己紹介・・・

- ・宮崎市育ち 教諭3校 教頭1校
校長2校 行政経験12年
宮崎県をこよなく愛する一人です。

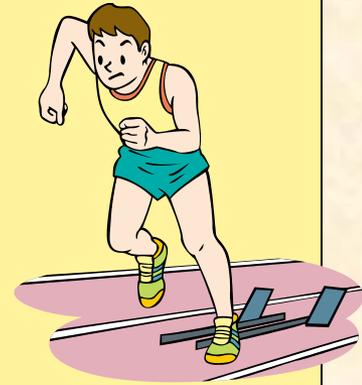


- ・H28~H30延岡市立旭小学校長 陸上教室復活

- ・野球、バレーボール、陸上スポ少監督・GM

- ・クローズアップ現代「SSTで学校が変わる」

- ・行政職の貴重な経験(教育事務所、本庁)



いつの間にか

社会教育、生涯学習がマイフィールドに・・・

子どもの時のあなたの親はどんな親でしたか

人間にとって、子育てというのは決定的に重要な技術を必要とする仕事の一つなのだが、ほとんどの家庭においては、**経験から学んだ勘を頼りに**手探りで進んでいかななくてはならないのが実情である。

体罰

根性

我慢

つまり、**自分自身の親から学ぶしかなかった**のである。

過保護

過干渉

放任

私たちは、親が自分を育てたやり方を見て気づかない間に学び、自分に子どもができた時には無意識のうちにその多くを模倣してしまう。

こうして受け継がれた子育てのための古い（新しい）アドバイスには、**はっきり言って間違っている**と言えるものがたくさんある。

「毒になる親」

（スーザン・フォワード著）から

きょうの話の冒頭で考えたいこと

- 子どもに生じる様々な問題（いじめ、不登校、ひきこもり、非行他）のほとんどが、「親によるしつけの後遺症」である。
- 「子どもの時にしっかりとしつけないと、ろくな大人にならない」という考え方は、子どもをめぐる環境が様変わりした今、「しつけ」＝「支配」であるという考え方が背景にあるとしたら、それは間違いである。
- 親に「支配」される子どもは、主体性を失い、自己否定に陥っていく。
- 子どものためにとがんばる親ほど子どもの「後遺症」が大きくなる。
- 子どもをありのまま受け入れる「母性」が失われることこそ問題である。

「毒になる親」
(スーザン・フォワード著) から

しつけ

世間が願っている望ましい子どもの姿に近づけること

親が望むあるべき姿を口うるさく命令することではない

自分が育っていく中で身に付いた作法が基盤となる

学習が
必要



本日の内容

- 1 コミュニケーション能力の必要性
- 2 コミュニケーションとストレスモデル
- 3 ロールプレイングをしてみましょう



**父親とその子どもが車にはねられる交通事故が
発生しました。残念ながら父親は即死、子どもは
重体で病院に運ばれました。手術室に運ばれた子
どもを見て、外科医がびっくりして言いました。
「これは、私の息子です。」**

父親は即死でした。外科医は、どうしてこのようなこと
なのでしょか？



**夏祭の夜、ある子どもが金魚すくいを楽しみ、
すくった金魚を家に持って帰りました。**

**ところが、次の日の朝、すくった金魚の一匹が
死んでいました。**

お母さんは、この金魚をどうしたのでしょうか？

※ 都会の話です…

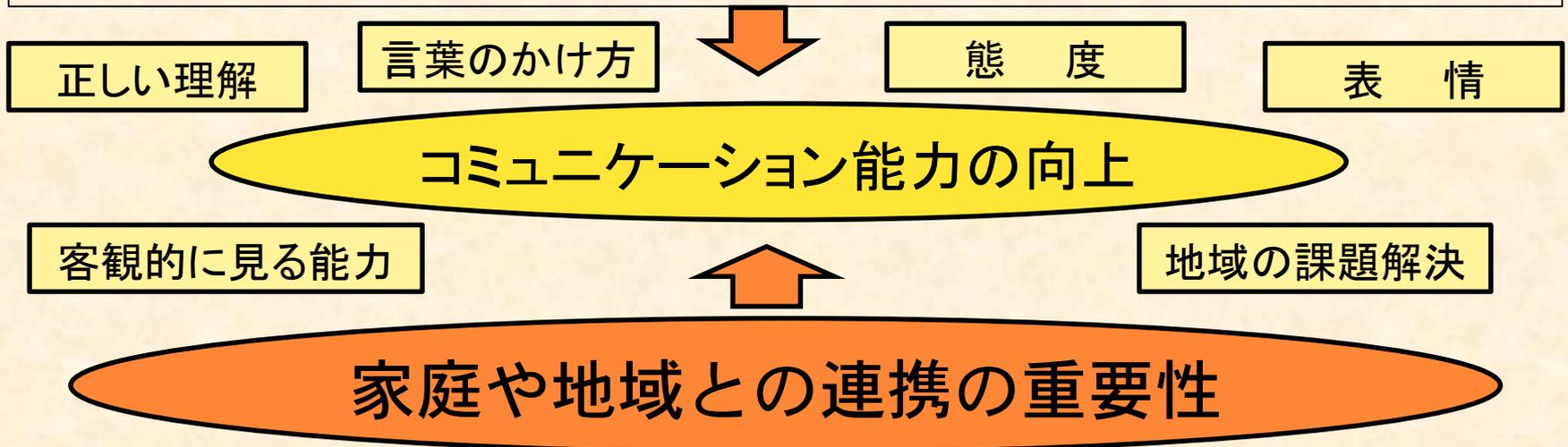


**男子中学生が、河原でハイライト（たばこ）を
すっていました。その時、生徒指導主事である
あなたは・・・**



- 人権感覚の高揚が求められる時代の到来
- 生命尊重の意識の希薄化
- 人の気持ちを理解することの重要性
 - ※理解しなかった時の危険性
- マニュアルだけでは十分ではない社会

- 県人口は、急速に減少している。
- ふるさとが好きな子どもの育成が課題である。



「雨にも負けず」のパロディー

雨にもあてず

宮沢賢治の故郷盛岡の小児科医三浦義孝氏
が小児学会で発表した 作者不詳

雨にもあてず 風にもあてず 雪にも夏の暑さにもあてず
ぶよぶよの体に たくさん着込み 意欲もなく 体力もなく
いつもぶつぶつ不満を言っている

毎日塾に追われ テレビに吸いついて遊ばず
朝からあくびをし 集会があれば 貧血を起こし
あらゆることを 自分のためだけ考えて かえりみず
作業はぐずぐず 注意散漫すぐにあき そしてすぐ忘れ

東に病気の人あれば 医者が悪いと言い
西に疲れた母あれば 養老院に行けと言い
南に死にそうな人あれば 寿命だと言い
北にけんかや訴訟があれば 眺めてかかわらず
日照りの時は 冷房をつけ みんなに勉強勉強と言われ
叱られもせず こわいものも知らず
こんな現代っ子にだれがした



過保護・過干渉度チェック

- 朝、親が子どもを起こしている
- 親が時間割・忘れ物をチェックをする
- 子どもの忘れ物を学校に届ける
- 子どもが帰宅後、学校で何があったか詳細を聞く
- 友だちとの関係にしょっちゅう口を出す

過保護・過干渉度チェック

- 先生から叱られたと聞くと、子どもが何をしたかより先生が子どもに何をしたかを優先して聞く
- 子どもが「水」というと、水を出す
- 子ども部屋の片づけをする
- 子どもの学校生活が気になってしょうがない
- 子どもが言うことは、正しいと思う

全国的な傾向ですが…

過保護をしていませんか？

ヘリコプターペアレント

上空を旋回するヘリコプターのように、子どものことに目を行き届かせて、子どもが嫌な思いをしたり、ピンチに陥ったり、失敗しそうな状況になると、すぐに急降下して救助する親の事

これらの行動は、子どものためにと
いう考えで行われるが、実は、子ども
の成長と自律を妨げてしまう



葛藤を抱えて悩んだり、自分で解
決方法を考えさせたりすることを
十分に体験させてもらえない



「お母さんを安心させてくれる子ども
いではないとあなたを受け入れら
れない」というメッセージになる



**「自信がもてない」「自分で解決でき
ない」「失敗することを恐れる」子ども
に育てることになる**

カーリングペアレント

子どもの行く先々の障害
物を先回りして取り除こ
うとする親の事



全国的な傾向ですが…

過干渉をしていませんか？

過干渉な親

子どもが選択することに対して
「ああしなさい」
「こうしなさい」「あれはやめておきなさい」などと干渉し、
子どもの考え方のプロセスを妨げてしまう親の事

「あなたの人生だからあなたが自由に決めればいいのよ」と言っておきながら、子どもが嫌だと拒否したら不機嫌になったり、ため息をつく親



これらの行動は、子どものためにと
いう考えで行われるが、実は、子ども
の成長と自律を妨げてしまう



葛藤を抱えて悩んだり、自分で解
決方法を考えさせたりすることを
十分に体験させてもらえない



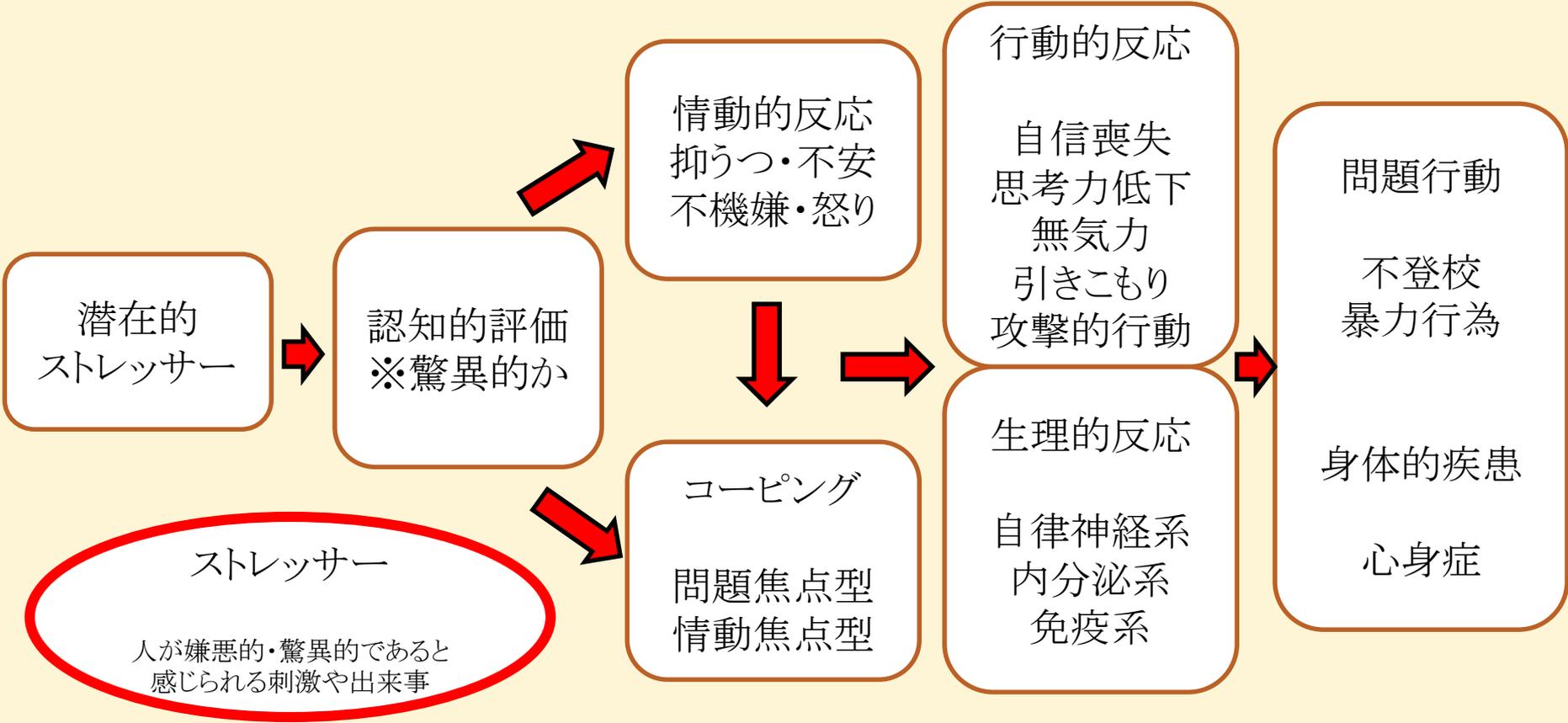
「お母さんを安心させてくれる子ども
いではないとあなたを受け入れら
れない」というメッセージになる



**「よい子を演じる」「自分で決めること
ができない」「評価を恐れる」子ども
に育てることになる**

ラザラスの心理的ストレスモデル

ストレス
ストレスラーによって引き起こされる心身の変化を包括的に表現したもの



問題焦点型コーピング: 直接問題を解決しようとする試み
情動焦点型コーピング: 気晴らしやうさばらし、問題逃避

ロールプレイングをしてみましょう！

【ほめる時】

小学校5年生の女の子が、

「お母さん、算数のテストが100点だったよ～」

と喜んで帰ってきました。

さて、あなたは、どのように接しますか？



具体的な言葉のかけ方や態度を考えてみましょう

【会話例】

子 お母さん、算数100点だったよ～

親 ふ～ん 100点は、何人いたの？

子 15人

親 たくさんいたのね

じゃ100点で当たり前だね

子 ……

親 ○○ちゃんは、どうだったの？

子 ○○ちゃんも100点だったよ

親 じゃ簡単だったんだね



言葉かけでこんなに違う ほめる時

子どもの立場の共感的理解

☆ うれしい気持ちを率直に受け止める

よかったね うれしいね
100点おめでとう

☆ 具体的な言葉かけ

苦手な算数を克服したね
宅習を毎日がんばって
いるからだね



言葉かけでこんなに違う ほめる時

喜びを表す態度・表情

☆ 子どもといっしょに喜ぶ

笑顔 身振り手振り 握手
抱きしめる 等の非言語活動

☆ I（私）メッセージ

お母さんもとってもうれしいよ



具体的な言葉のかけ方や態度を考えて見ましょう 【不安を聞いて励ます時】

小学校5年生の男の子が、

「お父さん、明日からテストだ。全然勉強して
いないから、不安だ。どうしよう。」

と不安そうに帰ってきました。

さて、あなたは、どのように接しますか？



【具体的な対応例と予想される子どもの受取り方】

- ① だいじょうぶ、うまくいくよ → 安易な保証
(自分の気持ちをわかってもらっていない)
- ② 心配しなくてもいいよ → 気持ちの否定
(心配している自分に共感してくれない)
- ③ だめならだめでもいい → 心配の先取り
(人ごとだと思っている)
- ④ だから普段から勉強しとけと言ったでしょう
→ 泣きっ面に蜂 (苦しみの追い打ち)

【具体的な対応例】

- ⑤ 今から徹夜でがんばれ → 追い込み
(息切れ)
- ⑥ 普段から計画的にやっておけばよかったのに
→ 正しすぎる意見、説教
(今さら言われてもどうしようもない)
- ⑦ 共感的理解(まずは、マッチング)
ある内科医
- ⑧ 聴いてあげた後に、
Iメッセージで行動変容の提案

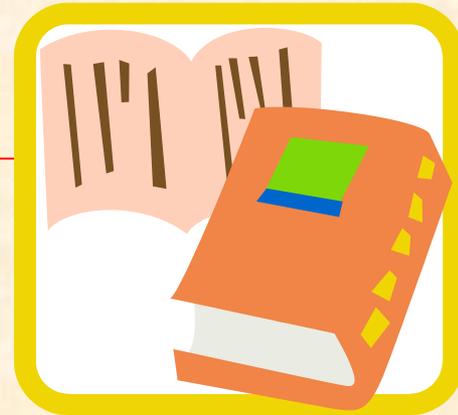


具体的な言葉のかけ方や態度を考えて見ましょう 【しかる時】

息子が、図書館で騒いでいて

本を読んでいるみんなに迷惑をかけています。

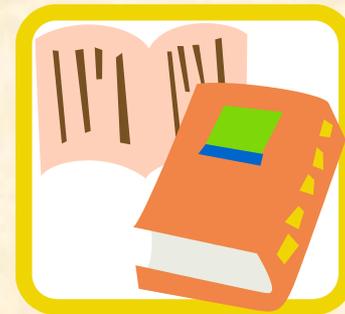
さて、あなたは、どのように接しますか？



間違った叱り方をしていませんか？

むやみに怒るという事は、「もう面倒をかけるなよ」という自分都合の感情からか、または、場当たりの行動でしかなく、子どもにとって負のイメージを植え付けるものでしかありません。

一方で、子どものための叱るという行為は、教育上
必要です。



【叱り方のポイント例】

- ① 「叱る」と「怒る」の区別を
- ② 叱り過ぎない謙虚な態度
- ③ 感情的にならない
- ④ しかるタイミング
- ⑤ 自分のくせを知る
- ⑥ 一貫性のある叱り方
- ⑦ 短時間で
- ⑧ 聴く姿勢も忘れない
- ⑨ 今後の変容に注目



「しかり方」を考えて見ましょう

小学4年生のたろうは、約束を平気で破ってしまうことがあり、母親は、困っています。

A小学校では、10月からは、薄暗くなるのが早いので、午後5時までに子どもは帰宅するように決まっています。

たろうくんの家でも、家の周りに田畑や山が多く、人通りもあまりないので、「午後5時までに家に帰ること」の家庭のルールをつくりました。

ところが、たろうくんは、おとといもきのうも遊びに夢中になり、帰ってきたのが5時半過ぎでした。母親は、きのう注意しようと思っていたのですが、言いそびれてしまいました。

そんな中、とうとうきょうは、6時過ぎに帰ってきました。



実際に考えてみましょう！（応用編）

小学校3年生の男の子が、

「お母さん、ぼくは 何もしていないのに

たろうくんが ぼくを たたいてくるんだよ・・・」

と悲しそうに訴えてきました。

さて、あなたは、どのように接しますか？

言葉かけでこんなに違う

子どもの立場の共感的理解

☆ 困り感を共有してあげる

それは、困ったものだね
どうしてそんなことするんだらうね
つらかったんだね

☆ プラス思考で受け止める

よくがまんしたね
つらいことをがまんしてえらいね

解決方法の提案と励まし

☆ 解決方法をいっしょに考える

たろうくんにどうしてたたくのか聞いてみたらどう？
いやだという自分の気持ちを伝えるといいよ
それでもダメなら担任の先生に相談したら・・・

☆ 実行を促し、励ます

やってみたらきっとうまくいくよ
お母さんも応援しているよ
うまくいかない時は、また相談してよ

我が子中心ではない考え方で接する

☆ 子どもの言うことを鵜呑みにしない

実は、我が子に原因があったのではないか
全部、自分以外のせいにするのは、よくない

☆ 子どもは「うそをつく」ことを理解して接する

様々な状況、角度から事実を引き出す
学級担任と連携して解決する

親に相談する時のほとんどは、甘えたい時である

☆ **聞いてあげるだけでほっとすることが多い**

十分に聞いてあげることが大切である
絶対に解決しようと思っているわけではない

☆ **根掘り葉掘り聞くのは、逆効果の場合がある**

逃げ場を作ってあげる
現場に居合わせてないので注意が必要

保護者と教職員と一丸となって
子どもたちを支えましょう！

ご清聴ありがとうございました。

